

# 夏井いづき

「俳人」



松山に念願だった庵が完成。  
早くここで、  
のんびり暮らしたいですね

TBS系バラエティ番組『プレバト!!』俳句コーナーで

切れ味抜群の査定をする姿でお馴染みの夏井先生。

俳人としての道を切り開いてくれた松山を拠点に

全国各地での句会ライブなども精力的にこなす日々。

念願だった庵が完成し、それがまた、新しい活力になっているようです。

## ● 言葉に携わる仕事がしたくて 国語教師になった20代

私の生家があったのは、愛媛県愛南町<sup>あいなんちょう</sup>というところ。実家は昔の特定郵便局で、大きな総2階の家でした。道路に面した部分が郵便局で、中庭や蔵があり、道路をはさんで離れもあって。まるでお化け屋敷みたいな大きな家でした(笑)。2階には広間が3つほどあって、郵便局の書類が置かれていたり、開かずの間と呼んでいた未使用の部屋があったり、陶器の立派な便器のトイレがあったり。あれは本当、今考えても不思議な家でしたね。

小さいころ楽しみだったのは、毎月本屋さんが届けてくれる少年少女文学全集。届くと妹と奪い合うように読んでいました。世界や日本の主要な物語が網羅されていて、そのときに読んだものが、のちのち、一般常識としての知識となり、また、自分の読書体験の核にもなったなと思います。

大学卒業後は、言葉に携わる仕事がしたくて、国語の教師になりました。教師生活で楽しかったのが教材研究。教科書という材料を生徒に合わせて、どう料理しようか、考える作業は本当に面白いんです。授業って、50分1本勝負の自作自演の舞台のようなもの。指導案という名の脚本を書き、生徒という観客がどこまで食いついてくるかを考える。子どもは正直なので、面白ければこっちを向くし、つまらなければそっぽを向く。それを毎回データとして蓄積していきました。こうした教師生活が、そののち、句会ライブをするときも、観客を2時間飽きさせずにこっちを向かせるノウハウにつながったかなと思います。

## ● 「俳人になる」と宣言した30代 季語の現場で俳句の筋トレに励む

教師の仕事は楽しかったのですが、諸事情あって、8年で辞めることになりました。そのとき、自分を納得させるために、「俳人になるので学校を辞める」という荒唐無稽な理由を周囲に言い放ちました。もちろん、俳人になれる見込みなんてなかったですよ。当時の私は単なる俳句の愛好家で、

句会に行ったこともなく、自分で勝手にやっていただけなんです。ただ、大風呂敷を広げた手前、なんとかするしかない。そんな心境で俳句に向き合い始めました。

学校を辞めて転居した先は松山。言わずと知れた俳句の都です。ここで、俳人になるため、暑いときも寒いときも季語の現場に出かけ、たくさんの俳句を作りました。情報って、五感からしか入ってこないし、それが脳に伝わって言葉となりアウトプットすることで俳句ができる。そういうトレーニングを私は「筋トレ」と呼んでいるんですが、黙々と積み重ねていくと、回路がいきいきと動いてくれるようになるんです。現場で体験して、季語を体で覚えることが、俳句では一番大事です。今、放送している『プレバト!!』では、1枚の写真を見て句を作りますが、あれはちょっと特殊なやり方なんです。ただ、あの番組を見て、俳句を作ってみようと思う人が増えたことは、大変ありがたいことだと思っています。

## ● 私を育ててくれたのは松山 念願の庵も誕生しました

30代で俳人になると宣言したのはいいですが、もちろん、簡単に食べていけないわけじゃありません。ただ、俳句の世界って、60歳でも若手なので、30代の私は結構珍しがられて、少しずつ、いろいろなところからお声がかかるようになりました。NHKの松山局に出させてもらったり、新聞で俳句キッズという小学生の俳句欄を作らないかと声をかけてもらったり。そうやって、松山という町が仕事を生みだしてくれました。俳句の町松山だったからこそ、家族がご飯をいただくことができました。松山に支えてもらって生きてこられましたので、今もこれからも、松山を離れることなんて、まったく考えたこともありません。

2006年、今の夫と再婚して、数年後、2人のためのマンションも松山で購入しました。で、そろそろ仕事を



### Profile

#### 夏井いつき (なつい いつき)

1957年生まれ。松山市在住。8年間の中学校国語教諭ののち、俳人へ転身。「第8回俳壇賞」受賞。俳句集団「いつき組」組長。創作活動に加え、俳句の授業「句会ライブ」や「俳句甲子園」の創設にも携わるなど、幅広く活動中。TBS系バラエティ番組『プレバト!!』俳句コーナー出演など、テレビやラジオでも活躍。2015年より初代俳都松山大使。『伊月集 龍』、『おウチde俳句』（ともに朝日出版社）など著書多数。

セーブして、好きなことだけをしてのんびり暮らそうと、終活会社「夏井&カンパニー」をたちあげたのですが、それと前後して始まったのが『プレバト!!』でした。当初は半年くらいで終わると思っていたんですが、どんどん様子が変わっていった。気がついたら、予想外に忙しくなっていました。マンションの部屋も会社関係の荷物で浸食されてきました。

ちょうどそのころ、私には“庵”を建てたいという夢がありました。庵というのは、誰でも自由に使える句会場のことで、「建てるなら上人坂しょうにんざかのあたりがいいな」なんて、ぼんやり思っていたんです。そうしたら、夫がいろいろ調べてくれて、希望している土地が宝厳寺ほうごんじさんというお寺の所有だとわかり、お話をしてみたらご住職いげつさんのOKが出て。2018年には、トントン拍子で「伊月庵いげつあん」という庵が完成し、専属の庵守が管理してくれています。伊月庵は、20人ぐらいが入れるスペースで、外にウッドデッキがあって、窓をあけるとフルオープンになる開放的な空間です。ここに植えた桜の花が咲くのを楽しみにしています。

庵のうしろの社員寮には、お花畑みたいなかわいい野菜畑があって、スナップエンドウやイタリアンパセリ、サニーレタスなんか植えられています。お庭番が大事に育ててくれているこの野菜を、手伝いに来てくれている夫の妹が摘んで、ご飯を作ってくれたりします。もう、本当に最高の生活です。あちこち仕事で飛び回り、全然ゆっくりできてないんですが、早く野菜畑を毎日ちゃんと見に行けるような、のんびりした生活がしたいですね。



2018年6月、道後湯月町上人坂に誕生した伊月庵。「伊月」は夏井先生の本名。庵の広さは10畳程度で、句会や勉強会などさまざまな文化活動に利用できる。

